

エコアクション21

2023年度環境経営レポート

(対象期間2023年8月1日～2024年7月31日)



発行2024年11月29日

株式会社 若木製作所

目次

1. 組織の概要	P.1
2. 対象範囲	P.1
3. 体制表	P.2
4. 環境経営方針	P.3
5. 環境経営目標	P.4
6. 主要な環境経営活動計画の内容	P.5
7. 環境経営目標の実績と評価	P.6
8. 1：環境経営活動計画の取組と評価	P.7
2：次年度の取り組み	P.8
9. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無	P.9
10. 従業員教育	P.10
11. 代表者による全体の評価と見直し	P.10

1. 組織の概要

1) 事業所及び代表者名

株式会社 若木製作所

代表取締役 若木 久嗣

2) 所在地

本社 東京都品川区西品川1丁目19番11号

工場 茨城県小美玉市鶴田1067-15

3) 環境管理責任者及び担当者連絡先

責任者：鬼澤 正明

連絡先：電話0299-48-3221 fax0299-48-2844

4) 事業活動の内容

家電製品などの操作パネルやネームプレートの製造・販売

5) 事業の規模

活動規模	単位	2021年	2022年	2023年
従業員	人	43	43	42
床面積（本社、工場合わせ）	m ²	2,050	2,050	2,050

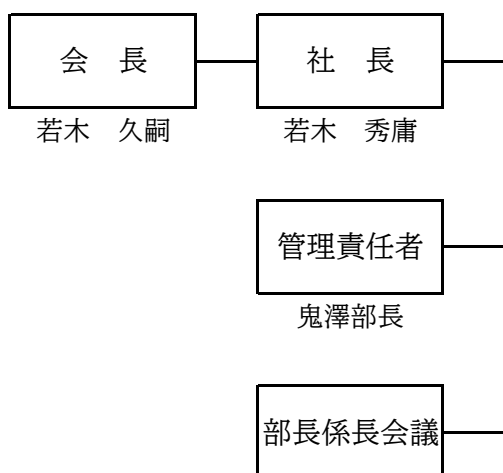
2. 対象範囲

・ 認証、登録範囲：本社及び工場 全組織 全活動

3. 体制表

会長、社長の役割

- 1、経営における課題とチャンスを確認にする。
- 2、環境経営システムの方針・目標を設定し
総括的に管理統制を行う。
- 3、管理責任者及び管理者を任命する。
- 4、代表者による全体の評価と見直しを行う。



管理責任者の役割

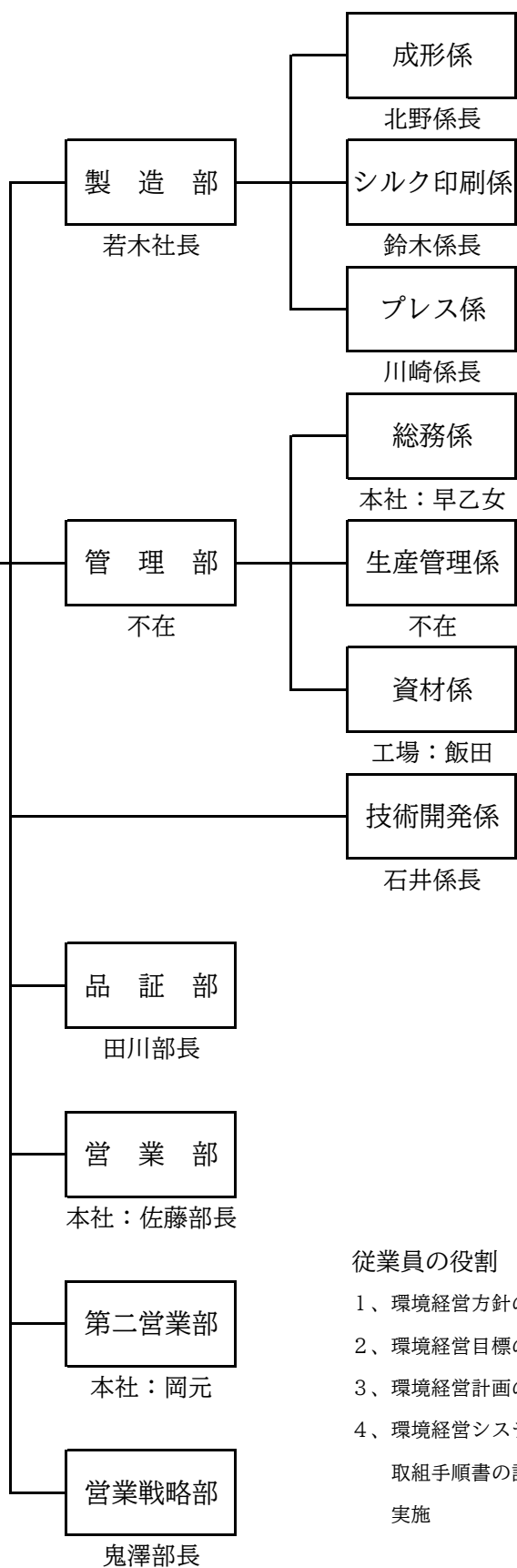
- 1、環境経営システムを構築・推進していく。
- 2、システムの結果を評価し対策をする。
- 3、システムの経過と結果を社長に報告し指示を受ける。
- 4、外部機関との渉外窓口を行う。

管理者の役割

- 1、社長、管理責任者の指示により環境経営システムを推進する中心となり、方針や目標達成の為に管理下の社員を指導する。
- 2、システムの結果を記録し、管理責任者に報告する。

部長係長会議

- 1、エコアクション21の月次の評価等を行い
全社員に意識向上に努める。



従業員の役割

- 1、環境経営方針の認識
- 2、環境経営目標の認識
- 3、環境経営計画の認識
- 4、環境経営システムの
取組手順書の認識と
実施

4. 環境経営方針

基本理念

当社は、社会生活を担う一員として自然環境を守る為、地域環境保全に向けた事業活動の推進と、環境汚染防止に努め、将来に亘り環境に配慮した取り組みに貢献します。

環境経営方針

当社は、事業活動を進めて行く上で環境保全が重要課題であることを認識し、以下に示すように、エコアクション21環境経営システムに取り組んでいく事を宣言します。

1. 環境経営システムを効果的に運用し、継続的な改善を図る。
2. 環境に関する法規制や制約事項を遵守する。
3. 当社が行う環境活動は以下を重点項目とする。
 - ①工場、事務所での電気、ガソリン等のエネルギーの使用量を減らして、CO₂排出量の削減に努める。
 - ②産業廃棄物の排出量を削減する。
 - ③水資源量を削減する。
 - ④危険物、有害物量の管理を適切に行い、排出の予防に努める。
 - ⑤5Sの推進を徹底する。
 - ⑥不良品を削減する。
4. 環境教育を実施して、全従業員に環境方針を周知させ、環境意識の向上を図る。

策定日：2018/7/31（改）
株式会社 若木製作所
代表取締役 若木久嗣

5. 環境経営目標

中期計画の環境経営目標と対象期間の目標値設定

当社は、下表に示す環境経営目標項目を設定し、年度ごとに数値目標を掲げて環境経営活動に取り組んできた。

2016年度以降は、2015年度の実績を基準値とし毎年1%～2%を減らす事を、中期目標とした。2023年度（2023年8月～2024年7月）は、2015年度実績の9%削減とし、電気使用量は、2018年度実績（438,331kWh）の4%削減、ガソリン使用量は、2018年度実績（19,503L）の3%削減、産業廃棄物量は、2020年度実績（32,916kg）の3%削減とした。

2024年度（2024年8月～2025年7月）は、2015年度実績の10%削減とし、化学物質の削減では、2%UPの11%削減、二酸化炭素排出量は、2021年度実績（274,295kg-CO₂）の1%削減、電気使用量は、2021年度実績（444,110kWh）の1%削減、ガソリン使用量は、2018年度実績の4%削減、産業廃棄物量は、2020年度実績の4%削減、一般廃棄物量は2021年度実績（824kg）の2%削減とした。

目標項目	単位	2015年度 基準年	2022年度 目標	2023年度 目標	2024年度 目標
二酸化炭素排出量	kg-CO ₂	413,758	380,657	376,520	372,382
出荷額当り	kg-CO ₂ /百万円	503.8	463.5	458.5	453.4
消費電力量	kWh	674,880	425,181	420,798	439,669
出荷額当り	kWh/百万円	818.5	753.0	744.8	736.7
ガソリン使用量	L	24,148	19,113	18,918	18,723
出荷額当り	L/百万円	29.3	27.4	27.0	26.4
産業廃棄物量	kg	23,995	32,258	31,929	31,599
出荷額当り	kg/百万円	24.3	46.4	45.9	45.4
一般廃棄物量	kg	—	—	816	808
出荷額当り	kg/百万円	—	—	—	—
総排水量	m ³	1,055	971	960	950
出荷額当り	m ³ /百万円	1.30	1.20	1.18	1.17
化学物質使用量 (キシレン)	kg	840	773	764	756
出荷額当り	kg/百万円	1.02	0.94	0.93	0.92
インキ購入量	kg	9,845	9,057	8,959	4,918
不良品率	%	2.75	2.53	2.5	2.48

*二酸化炭素の排出係数は電力0.416kg-CO₂/kWh ガソリン2.322kg-CO₂/Lを用いた。

当社で管理すべき化学物質は洗浄溶剤中のキシレン、WSシンナー中のトルエンがあるがトルエン使用量は少量なので、P R T R対象となるキシレンを削減目標として取り上げる。

6. 主要な環境経営活動計画の内容（2023年8月～2024年7月）

当社の環境経営方針に従い、環境経営活動は以下の内容で取組んだ。
活動計画の具体的な数値目標は環境経営目標/経営活動計画/結果管理表に示す。

1. 電気使用量の削減に取り組む

- ①冷暖房温度の設定を夏27℃、冬20℃とする。
- ②瞬間最大消費電力を設定しキープする。
- ③使用していない時や、不要の場所の電源は切る。

2. ガソリン使用量を減らす

- ①アイドリングストップ、空吹かし運転の禁止。
- ②省エネ速度での運転を徹底。
- ③エコカーへの転換を計る。

3. 廃棄物排出量の削減

- ①品質管理を徹底し不良を削減して、廃棄物を減らす。
- ②再利用品を増やし、廃棄物を減らす。
- ③分別の基準を守るよう教育し徹底する。

4. 水資源使用量の削減

- ①生活用水の節水を心がける。
- ②防火用貯水槽などの漏水がないか水道水使用料でチェックする。

5. 化学物質の使用量を減らす

- ①溶剤・シンナーは小分け容器に分け、蓋をして使い、使用量を減らす。
- ②インキの購入量を適切に行い在庫を減らす。
- ③印刷は二液型インキを出来るだけ一液型に置き換え、廃インキを減らす。

6. 5Sの徹底

- ①各部署毎で、1回/月の5Sチェックシートによるチェック及び点数評価を行う。

7. 不良品の削減

- ①1回/月の不良対策会議を実施する。
- ②ロット15%以上不良発生時に不良対策依頼書を発行する。
- ③社内品質不良連絡書を発行する。

7. 環境経営目標の実績と評価

エコアクション21の取組み（2023年8月1日～2024年7月31日）の実績は、下表の通りである。

No.	目標項目	単位	目標 (2023年8月～ 2024年7月)	実績 (2023年8月～ 2024年7月)	評価
1	二酸化炭素排出量削減	kg-CO2	376,520	207,493	○ 44.89% 減
	(出荷額当り)	kg-CO2/百万円	458.5	363.6	
2	消費電力量削減（全体）	kWh	420,798	420,981	× 0.04% 増
	(出荷額当り)	kWh/百万円	744.8	565.8	
	消費電力量削減（本社）	kWh	6,959	9,503	× 36.56% 増
	(出荷額当り)	kWh/百万円	—	—	
	消費電力量削減（工場）	kWh	413,839	411,478	○ 0.57% 減
	(出荷額当り)	kWh/百万円	—	—	
3	ガソリン使用量削減	L	18,918	13,938	○ 26.32% 減
	(出荷額当り)	L/百万円	27.4	18.7	
4	産業廃棄物量削減 総廃棄物として記載分	kg	31,929	24,090	○ 24.55% 減
	(出荷額当り)	kg/百万円	46.3	32.4	
5	一般廃棄物量削減	kg	816	980	× 20.10% 増
	(出荷額当り)	kg/百万円	—	1.3	
6	水使用量削減（全体）	m ³	960	678	○ 29.38% 減
	(出荷額当り)	m ³ /百万円	1.20	0.91	
	水使用量削減（本社）	m ³	58.0	101	× 74.14% 増
	(出荷額当り)	m ³ /百万円	—	—	
	水使用量削減（工場）	m ³	902.0	577	○ 36.03% 減
	(出荷額当り)	m ³ /百万円	—	—	
7	P R T R化学物質洗浄 剤全体(キシレン)削減	kg	764	475	○ 37.83% 減
	(出荷額当り)	kg/百万円	0.94	0.64	
8	インキ購入量削減	kg	8,959	2,540	○ 71.65% 減
9	不良率の低減	%	2.5	4.73	× 89.20% 増

*二酸化炭素の排出係数は電力0.416kg-CO2/kWh ガソリン2.322kg-CO2/Lを用いた。

特記

- ・消費電力量削減では、昨年に続き本社が36%も増えているが、これは本社が冷房室での保管の委託業務を請けたためで、今後は目標値を調整したい。
- ・水使用量削減では、本社のトイレが休日に故障し74%も増え、設備業者等による点検や休日前の元栓の管理を行う様に対応したい。
- ・不良率の削減では、89%も増えてしまい、顧客による品質が厳しくなっていく中で、技術面や加工の改善等に注力して頂き、削減に努めて欲しい。

8.1 環境経営活動計画の取組みと評価

インプット	単位	2022/8～2023/7	2023/8～2024/7	割合
総エネルギー投入量	MJ	4,719,403	4,620,498	2.10%減
水使用量	m ³	650	678	4.31%増

アウトプット	単位	2022/8～2023/7	2023/8～2024/7	割合
二酸化炭素排出量削減	kg	261,979	207,493	20.80%減

活動をスタートして、9年目の1年間の取り組みに対する評価は下記のようなものである。

1. 電気消費量の削減	評価
①冷暖房温度の設定は、マスク着用の為、冷房設定の定着が厳しかった。	△
②瞬間最大消費電力は、7～9月の高温時でも設定値をキープ出来た。	○
③不使用時・場所の電源オフは、定着した。	○
2. ガソリン使用量の削減	評価
①アイドリングストップ等の意識は浸透したと思われる。	○
②コロナ影響も少なくなり、営業に行く頻度が多くなったが、削減は出来ていた。	○
③エコカーの購入も検討したい。	—
3. 廃棄物排出量の削減	評価
①総廃棄物量は、削減出来ているが、不良の削減がまだまだ出来ていない。	○
②成形材の再利用は、徐々に減ってきてしまっている。	○
③廃棄物と資源物との分別を徹底して出来た。	○
④一般廃棄物も別に処理する様にした。	○
4. 水資源使用量の削減	評価
①平均値より、多い月があったが、小計及び、通期でも削減出来たが、引き続き削減に努めたい。	○
②毎日の水道メーターでの数値記録でのチェック、各部署での点検等に切り替えてチェックを行い削減に努めている。	○
5. 化学物質の使用量の削減	評価
①スクリーン印刷で使用する溶剤の削減は、前年度同様に目標達成した。	○
②インキの購入量も、前年度同様に目標達成した。	○
③廃インキ削減は、インキ調合量を少なくする工夫を継続し、削減している。	○
6. 5Sの徹底	評価
①各部署で、1回/月の5Sチェックシートによるチェック及び点数評価を行い、点数の悪い所を次月のチェックまでに改善する様に努めている。	○
7. 不良品の削減	評価
①1回/月の不良対策会議を実施している。	○
②ロット15%以上の不良発生時に、不良対策依頼書を発行している。	○
③社内品質不良連絡書を発行している。	○
④各部署でのワースト1位の不良を対策する様に指示している。	○

8.2 次年度の取り組み

10年目に入ったエコアクション21活動の取り組みは下記のように進めたい。

1. 電気消費量の削減

- ①冷暖房温度の設定を更に徹底して定着させる。
- ②瞬間最大消費電力は昨年度より、低い設定値としキープする。
- ③不使用時及び不要場所の電源オフを更に徹底する。

2. ガソリン使用量の削減

- ①手順書の内容を守り、更に削減して行く。
- ②納品頻度や、納品ルートを検討して行く。

3. 廃棄物排出量の削減

- ①製品の不良率を下げ、新目標値を達成出来るように、品証部を中心に全員で取り組む。
- ②成形材のリターン及び粉碎して資源物に促進する。
- ③廃棄物と資源物との分別を徹底する。

4. 水資源使用量の削減

- ①生活用水の節水及び点検等を心掛ける。
- ②防火用貯水槽等の漏水が無いか、水道メーターでチェックし、記録する。
- ③クーリングタワーの漏水が無いか、定期的にチェックする。

5. 化学物質の使用量の削減

- ①インキの購入を必要最小限にするよう印刷係と資材係でチェックを行う。
- ②2液型インキを1液型インキに置き換え、廃インキを減らすように検討して行く。

6. 5Sの徹底

- ①毎日の作業中でも5Sの意識を持ち、1回/月のチェックと改善を進める。

7. 不良品の削減

- ①1回/月の不良対策会議を実施する。
- ②ロット15%以上の不良発生時に、不良対策依頼書を発行する。
- ③社内品質不良連絡書を発行する。
- ④各部署でのワースト1位の不良対策会議を実施する。

9. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

関連法規の2023年度の遵守状況は、2024年8月にチェックリストで確認した。

法規制と遵守状況

監査対象事業所：若木製作所 美野里工場

チェック項目		遵守チェック内容	結果
廃棄物 処理法	置き場	分別状況	○
		リサイクルと廃棄物の区別	○
		保管の状態(飛散、漏れ、悪臭、印象)	○
		表示(60cm×60cm以上、種類、管理者名、連絡先・保管可能量)	○
	運搬・ 処理	業者との契約(すべての産廃業者と契約されているか)	○
		契約書の有無と許可証の期限(期限切れとなっていないか)	○
		一般廃棄物(紙屑、木屑)は、一般廃棄物業者に委託(特定事業者は産廃)	○
	マニ フェスト の管理	必要事項の記載	○
		B2、D、E票の回収状況(A票照合欄への日付け記載)	○
	廃棄物管 理票交付 状況報告 書提出	毎年6月までに茨城県に報告	○
消防法	規定数量以下の管理 指定可燃物		○
	消火設備(有効期限)		○
	消火器の表示(見やすいか)		○
	許可届出(許可：指定数量以上、届出：指定数量1/5以上)		○
	危険物取扱者の設置		○
化管法(P R T R法)	P R T R法に関わる報告(茨城県では届出義務無し)		○
	S D Sの管理		○
フロン排出抑制法	第一種特定製品の簡易点検の実施状況		○
労働安全衛生法	第二種特定化学物質の空气中濃度・定期検査の実施状況		○
小美玉市 環境基本条例	2条：公害発生特定施設の届出必要性の有無		○
	7条：公害発生時の届出		○
下水道法	小美玉市公共下水道区域		○

その結果、下記に示すように関連法規への違反は無かった。

尚、関連当局よりの違反等の指摘は、過去9年間無かった。

内容	2024年7月31日 結果
法律違反の有無	無し
訴訟の有無	無し

10. 従業員教育

エコアクション21を立ち上げ、9年が経過し、1回/月の部長係長会議でエコアクション21の月次の評価をし、全社員に伝え意識向上に努めた。

11. 代表者による全体の評価と見直し

実施日：2024/9/13 参加者：(経営責任者)若木久嗣・若木秀庸 (環境管理責任者)鬼澤正明

報告項目	管理責任者からの報告内容	結果
1)環境経営 システム構築	エコアクション21の仕組み・体制の整備は定着した。 このシステムを維持し、継続的な改善を行う。	○
2)環境経営目標	○電力使用量削減は、本社が36%も増えてしまい、工場は削減出来たが、全体では目標未達。基準値の見直しと節電への取り組みを徹底する。	×
	○ガソリン使用量削減は、昨年同様に納品頻度の改善等もあり、26%も削減ができ、引き続き継続して行きたい。	○
	○産業廃棄物削減は、24%削減が出来たが、一般廃棄物では20%増えてしまい、増えた原因を調査し削減に努めたい。	△
	○水資源使用量削減は、本社のトイレが休日に故障し74%も増え、設備業者等による点検や休日前の元栓の管理を行う様に対応したい。	△
	○キシレン購入量は37%減、インキ購入量も71%減で、目標達成。 作業環境測定(年2回)でも、基準値をクリアーして問題無し。	○
	○不良率削減は、四半期毎でも目標未達で、通期でも89%増で目標未達。 来期は目標達成出来る様に、技術面や加工の改善等に注力して頂き削減に努めて欲しい。	×
3)環境関連 法規制	環境関連法規の適用の是非を改め、また、製品含有化学物質管理規定の管理も行っている。	○
4)外部からの 苦情・要望	環境に関わる苦情・要望等なし。	○
5)環境教育	エコアクション21システムの構築にあたり、1回/月の部長係長会議でエコアクション21の月次の評価を行い、掲示する事で全社員に伝え、意識の向上を図っている。	○
会長・社長 からの指示	環境経営活動を続けて来て社員の意識も定着し、今年度の成果も良いと思います。 ただし製品の不良率目標が続けて未達なのが残念である。 不良対策会議や品証のデータの迅速なフィードバックと対策など進めているが、なかなか成果が上がらない。 技術的に難しい製品が多くなってはいるが、不良削減は経営において重要な項目なので最重点に取り組んでもらいたい。	
変更の必要性 の有無	①環境経営方針	変更無し
	②環境経営目標	2024/8/30改定
	③環境経営計画	変更無し
	④実施体制	変更無し